

静岡県立大学
UNIVERSITY OF SHIZUOKA

30th

10年後の静岡を創る スーパーセミナー

～知の丘を往く～



10年後の静岡を創るスーパーセミナー ～知の丘を往く～

2016年12月～2017年6月（計7回）

静岡県立大学創立30周年

静岡新聞75周年・SBS65周年

静岡商工会議所新産業開発振興機構15周年記念

後援―静岡県、静岡市、静岡ガス株式会社、株式会社静岡銀行、静岡鉄道株式会社、

鈴与株式会社

記録のデジタル版

はじめに

2017年（平成29年）4月、静岡県立大学は創立30周年を迎えました。本学は、1987年（昭和62年）に静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学が統合し、新しく静岡県立大学と同短期大学として発足したものです。薬科大学の源流は1916年（大正5年）に設立された私立静岡女子薬学校にあり、戦後設立の女子大学、短期大学とともに女子教育に重点を置く高等教育機関であったことは大きな特徴です。時代の要請とともに男女共学となり、学部学科を再編成して現在の姿となりました。しかし県立大学として、地域とともに、地域のために貢献するという使命は、今までも、これからもいささかも変わっていません。

後世の人々は、2017年の前後を時代の大きな転換点として回顧するのではないでしょうか。今上天皇の退位が決まり、平成という時代がまもなく終わります。いわゆる「2018年問題」、すなわち大学入学の18歳人口の大幅な減少が2018年から始まります。若者の県外流出を中心とする地域人口の減少は、さらに深刻になるでしょう。一方、世界中で、AI、IoT、遺伝子工学などをベースにした「インダストリー4」へと産業構造が変化し、社会全体が新しい歴史段階（「ソサエティー5」）に踏み込むと予想されています。大学は、

文明の転換が進む中でどのような教育と研究を遂行し、人口減少とそれにとまなう地域課題の解決のためにどのように貢献するかが問われています。

創立30周年の記念すべき年に当たって、「地の拠点」としての本学が、静岡県民、行政、産業界と一緒にあって、歴史的な課題について考えるために、小林裕和副学長（当時）が責任者となって連続セミナーを企画しました。全体のタイトルを「10年後の静岡を創るスーパーセミナー ～知の丘を往く～」として、平成28年12月3日から平成29年6月17日まで、毎月1回のペースで、7回開催することができました。課題として選んだテーマは、人口流出とその対策、地域産業の活性化、産業基盤の刷新、災害・持続可能社会、女性の活躍と社会的包摂の地域づくり、観光と海外展開、医療・介護です。毎回、3～5名の講師による講演、そしてパネルディスカッション、参加者との質疑応答を行いました。

各セミナーの開催日とタイトルは以下のとおりです。

第1回 平成28年12月3日 静岡県立大学

「そして誰もいなくなった ～人口流出とその対策」

第2回 平成29年1月21日 しずぎんホールユーフォニア

「静岡を買いますか? ～地域産業の活性化」

第3回 平成29年2月11日 静岡県立大学

「人・モノ・カネが静岡を駆け巡る ～産業基盤の刷新」

第4回 平成29年3月11日 静岡県立大学

「沸騰する地球。私たちは生き残れるのか ～災害・持続可能社会」

第5回 平成29年4月8日 静岡商工会議所静岡事務所

「静岡発、ジエンダー平等社会 ～女性の活躍と社会的包摂の地域づくり」

第6回 平成29年5月6日 しずぎんホールユーフォニア

「旅人來たりて曰く、廁所在哪里（トイレはどこですか）？ ～観光と海外展開」

第7回 平成29年6月17日 静岡県立大学

「何歳まで生きたいですか？ ～医療・介護」

なお、本セミナーは本学創立30周年とともに、静岡新聞75周年・SBS65周年、静岡商工会議所新産業開発振興機構15周年を記念する事業と位置付けて、株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社、静岡商工会議所新産業開発振興機構との共催として実施しました。また、静岡県、静岡市、静岡ガス株式会社、株式会社静岡銀行、静岡鉄道株式会社、鈴与株式会社の団体、各社より後援をいただいております。企画から実施に至るまでの期間、テーマの

設定、講師の依頼、司会者との打ち合わせ、会場設営と、全ての段階において多大な御支援を賜ったことを記して感謝申し上げます。特に株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社シニアプロデューサー(当時)、澤木久雄様にはいろいろなアイデアをいただき、4回にわたって名司会者としてセミナーを盛り上げてくださいました。末筆ながらお礼申し上げます。

内容が豊かで、将来に希望がもてるセミナーになったのではないかと自負しておりますので、参加できなかった方にもセミナーの内容について広くお知らせしたく、録音をもとに報告書としてまとめました。スペースの制約があるために、簡潔な要約となっておりますが、当日の雰囲気を感じ取っていただけたと思います。これからの10年後、30年後の静岡をどのように創っていけば良いのかを考える上で、ヒントを読み取り、活用していただければ幸いです。

2018年1月

静岡県立大学 学長 鬼頭 宏

目次

はじめに..... 3

第1回 そして誰もいなくなった ～人口流出とその対策

静岡の人口減少 そして誰もいなくなった。

— ……と思いきや、笑顔で人がやってくる！..... 13

静岡市の人口減少の現状と対策..... 25

新たな故郷を静岡で..... 37

人口流出とその対策 —人口減少下の都市政策..... 49

地方分権のまちづくり・人づくり..... 59

パネルディスカッション..... 71

質疑応答..... 80

書面にて寄せられた質問とその回答..... 86

第2回 静岡を買いますか？ ～地域産業の活性化

地域産業の現状と課題..... 103

静岡ブランドの現状と課題..... 115

	静岡を買いいますか？ ～地域産業の活性化(お茶)……………	中村 順行	127
	AI(人工知能)とニュービジネスへの期待……………	狩野 芳伸	139
	パネルディスカッション……………		149
	書面にて寄せられた質問とその回答……………		160
第3回	人・モノ・カネが静岡を駆け巡る ～産業基盤の刷新		
	新東名高速道路及び中部横断自動車道による静岡県地域の活性化……………	黒田 健二	171
	将来、静岡県内の物流はどう変わるか……………	野村 博	185
	静岡鉄道「沿線の賑わい創出へ」……………	川井田智英	195
	新しい農業モデルで地域活性……………	西村やす子	205
	パネルディスカッション……………		217
	質疑応答……………		227
	書面にて寄せられた質問とその回答……………		232
第4回	沸騰する地球。私たちは生き残れるのか ～災害・持続可能社会		
	静岡の森と地球温暖化……………	谷 晃	241
	エネルギーのスマート革命 —10年後の静岡を考える……………	中井 俊裕	253



南海トラフ地震の予測に向けて…………… 楠城 一嘉

ICTの進化が支える静岡の防災…………… 湯瀬 裕昭

パネルディスカッション……………

質疑応答……………

書面にて寄せられた質問とその回答……………

第5回 静岡発、ジェンダー平等社会 ～女性の活躍と社会的包摂の地域づくり

女性が活躍する社会に必要なもの…………… 国保 祥子

静岡発、ジェンダー平等社会……………

—静岡市女性会館の取組を中心として…………… 松下 光恵

企業社会の取組と、地域づくり…………… 佐野 道子

若者の居場所のある「社会」をつくる…………… 津富 宏

パネルディスカッション……………

質疑応答……………

書面にて寄せられた質問とその回答……………

374	369	355	343	335	323	311	304	301	285	273	259
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

第6回 旅人來りて曰く、廁所在哪里(トイレはどこですか)? ～観光と海外展開

オリンピックが終わった後のインバウンド時代に向けて

〜10年後、魅力的な観光地になるために……………北上 真一

静岡県内の観光の現状と将来……………水野 雅晴

海外から見た静岡とは……………齋藤 一史

人の交流と留学生……………尹 大榮

観光と海外展開における感染症のリスクマネジメント……………鈴木 隆

パネルディスカッション……………

書面にて寄せられた質問とその回答……………

第7回 何歳まで生きたいですか? 〔医療・介護〕

がんの薬 〔幸福な生き方と死に方〕……………本庶 佑

ゲノム医療 〔個人ごとの医療を目指して〕……………榎 佳之

暮らしやすく生きやすくするための看護と介護のつきあい方……………渡邊 順子

質疑応答……………

書面にて寄せられた質問とその回答……………

おわりに……………

527 516 507 487 473 455 449 439 429 421 411 397 383